

## 第29回俳句コンクール授賞式

ヘルマン・ファン・ロンパイ日 EU 俳句交流大使 挨拶（原文 仏語：和文仮訳）

平成28年5月12日（木）於：在セネガル日本国大使館講堂

まず初めに、今回の招待に関し、日本国大使に感謝いたします。これは、アフリカ、アジア、ヨーロッパの特別な邂逅です。俳句の普遍性、グローバリゼーション、そして平和を象徴するものです。詩、そして美は、ひととひととの友好に貢献します。

セネガルは、サンゴール初代大統領の功績により、アフリカ詩句の本拠地です。

美しさにまつわるコンクールというものは、ある意味、完結した矛盾をはらんでいません。美はそこに存在し、他と比べられるものではありません。したがって、それぞれの句にはそれぞれの価値があります。

コンクールは、作者以外の人々をどれほど感動させる術<sup>すべ</sup>に長けているかを基準に表彰するものです。美しさへの感受性を、人々に知らしめる術を知っているものに対してです。

コンクールはまた、詩句に対する賛同を与えるものです。詩はその魅惑的な力を広めます。そして、異なった才能をも触発します。セネガルのみならず、他の地域の才能も。

俳句は、短く、簡潔で、具体的であることから、最も親しみやすい詩の形態です。

もし万人が詩句を愛好するのならば、私たちはより良い世界に生きることとなるかもしれませぬ。

私が、俳句をしたためたことのない皆様にアドバイスを与えられるとしたら、まず始めてみることをお勧めします。作りながら、学ぶのです。詩を作りながら、自らの詩人としての素養を発見していくのです。創作そのものによって作者となるのです。

詩作に親しんできたなら、より意識的な方法を取ります。自然のあらゆる要素、その動きや歌や変化すべてに注意深くなることです。季語をたやすく見つけられることでしょう。自分の感受性が自ずと発達していくため、より人間味を増すことでしょう。

執筆には教育的な機能があります。

俳句は自然と季節から生まれますが、そこにとどまるものではありません。私たちの存在にある、深淵なる知覚に訴えるものです。時にちょっとした憂愁をも誘うもの…、受賞作にも見られますが、それが俳句を含むあらゆる詩の源となります。しかし、しばしば俳句は、自然、すなわち、消え去り生まれ変わる運命にある万物の希望のしるしを示します。満開の桜の、つかの間の壮麗があると同時に、開花についてあらかじめ刻み込まれた永遠のサイクルがあるのです。俳句とは、復興と再生が訪れるであろうとする確実さを表現する希望のメッセージです。芭蕉や其角の門弟曰く、俳句とは心と心を対面させるものです。それは、生きる希望を繰り返し与えます。これは、受賞作にもあまねく見られるものです。

私は国際的な俳句の大使であると同時に、俳句という日本の文化遺産の大使でもあります。しかし、自分自身を使節とも考えており、日本国大使館を代表する大使にとどまらず、普及させる役割を持った、使命を携えた人間であると考えています。

受賞された詩人の方々におかれては、作品を発表したり話をしたりすることによって、美しさを広める役割もあります。俳句は人間としての自分自身と共に、他者をも豊かにします。これが、私が皆様に期待することです。

聖書から引用した言葉にて、私の結句とさせていただきます。

さあ、あなたの詩を広めるのです！

(了)